

令和5年度 第2回向日市男女共同参画審議会 議事要点録

- 日 時 令和6年3月26日（火）午後1時30分から3時00分まで
- 場 所 永守重信市民会館 第3会議室
- 出席者
（委員）
竹井委員、大束委員、岩野委員、松野委員、森田委員、田賀委員、松井委員
（事務局・説明員等）
ふるさと創生推進部長 野田、副部長兼広聴協働課長 柴田、主幹 白波瀬
- その他出席者
傍聴者 なし
- 会議概要
議事内容
（1）令和5年度向日市男女共同参画推進事業について
令和5年度向日市男女共同参画推進事業について事務局から説明を行った。

【意見の要旨】

一議事内容（1）について一

- 委 員： 庁内推進会議の会議録の提示はありがたい。
これまでも庁内推進会議は、このように複数議題について意見聴取をする形式でされていたのか。
- 事 務 局： 令和7年度に第3次向日市男女共同参画プランの改訂、また、来年度に市民意識調査の実施を予定していることから、今年度は、重点議題を中心に庁内推進委員に意見を聴くようにした。また、審議会の皆様にも次年度以降のことを踏まえ、この会議録を提示させていただくこととした。
- 委 員： 庁内推進委員でどのような議論がされたのかが分かり、非常によかった。
進捗状況調査表では、ほとんどがC以上と非常に高くなっているが、実情とは乖離しているという意見があり、審議会でも、どのようにすればいいのかを一緒に検討したいと思う。
- 委 員： 進捗状況調査表を経年でみて、低評価が継続しているところは、

どこに問題があるかということを考えていくことが必要ではないか。

長いスパンで考えていく必要があるので、次回からは単年ではなく経年で確認できるようにしてはどうか。

委員： どの項目が実情と乖離しているとの意見があったのか。

事務局： 庁内推進委員が、自分が担当する項目だけでなく全体を見た上での意見であり、具体的な項目が、その場で取り上げられたものではない。

委員： 庁内推進会議でも、意見が出た項目について、より詳細にヒアリングしていただき、それをフィードバックしていただければ、審議会でも更に議論ができると思う。

事務局： 来年度のプランの改訂を踏まえて、各課ヒアリングをしっかりと行い、評価の判断基準の均衡も図りたい。

会長： 評価基準について、対象項目が非常に多いので、各課それぞれで重点項目を決めて行う方が効果的ではないか。また、もっと実効性のあるものに絞ってはどうか。

委員： 庁内推進会議の委員は、年齢が高く、男性が多いのか。

事務局： 課長が委員となっており、年齢は40代が多い。20名の委員の内4名が女性となっている。委員となる課は規程で決まっており、比率については人事異動で変わるが、今年度は、女性の割合が少なかった。

委員： 昔に比べて女性の課長は増えている。また、男性の育児休暇の取得率も増えていて、進んでいるイメージがある。

委員： 数年前は、庁内推進会議をされていないとお聞きしていたので、その点では、一歩前進した。

会長： 向日市に関わり始めた頃と比べると、ずいぶん男女共同参画という考え方が進んだと感じる。周知の方法として、広報誌にコラムなどを掲載してみてもどうか。

事務局： すぐにできるかわからないが、市民や民間事業所などへの啓発につなげるためにも、育児休暇を取得した男性職員のインタビュー記事の掲載なども検討していきたい。

委員： 向日市の男性の育児休暇の取得率は高く、市役所内で取得しやすい環境になっている。民間企業ではなかなか進んでいないので、

広報誌で取り上げるのは効果があると思う。

委員： 今ではジェンダーという考え方が浸透し、男女という言葉を使うのもどうかという意見もある。先ほど委員が言われたように市役所では、男性の育児休暇取得が高いが、一般社会では、「女性が出るもんじゃない」とか「お父さんに意見を聞いてから」というような事が根強く残っている。

市内推進会議で意見があったように、幼少期からの意識付けがすごく大切な事だと思う。

委員： 若い方の考え方も変化していて、今では、お父さんが保育所などの送り迎えをしている家庭も多く、お母さんだけが送り迎えをしている家庭が珍しくなっている。父親が孤立せずに馴染めるようにしていくことなども、保育現場では課題となっている。

男性が育児休暇を取る家庭と取らない家庭や職場環境が進んでいるところと進んでないところなど、色々な面で格差がでてきているので、次の段階の施策、取り組みが必要となっているのではないか。

委員： 昔は、卒業式や入学式などの参加はお母さんがほとんどであったのが、今では、両親ともに出席されたり、平日の学校行事でもお父さんの参加も増え、仕事が休める環境、働き方が変わってきている。

パートで働いているお母さんも多く、休むのはお母さんという家庭も実際にはあるが、最近では、子育ては、男女関係なく協力してするものという考え方が、普通となりつつある。

小さい頃からの意識づけが大切なので、縦割りで事業をするのではなく、教育部などと横の連携をして事業を展開していく必要があると思う。

また、市内推進会議で出た意見を、今後どうしていくのが大切であり、全てをするのは難しいので、できるところから一つずつ、しっかりやっていただきたい。

会長： 議題の女性に対する DV に関して、他部署と連携、情報共有するためのフローチャートのようなものはないのか。また、向日市では、ワンストップセンターのようなものは、あるのか。

事務局： DV に関しては、広聴協働課が窓口となっているが、実際は、子

どもの虐待の関係を扱っている子ども家庭課の方が、実態を把握し対応していることが多い。

会長： 子どもの虐待とその親の DV は、重なっていることが多いということですね。

事務局： 広聴協働課に単独で相談に来られる方もあるが、子ども家庭課の方が実態把握していることが多いので、連携しながらやっている。

会長： 各種審議会等の女性比率の問題については、長いスパンで過去からの女性比率が見えるようにすると、担当課に意識してもらえるのではないか。

また、女性委員の登用について、適材適所という考え方は間違っているのではないか。例えば、「きちんと発言できる女性を探そう」などと言われるが、男性はそのような資格が問われず、女性は資格が問われている時点でおかしい。適材ということではなく、女性を入れるということを原則にしていかないと 40%達成は極めて困難である。ただ、人数が少ないところは、なかなか難しいがそれぞれにできる方法を考えるべきだと思う。

最近では、防災というところで女性の役割が重視されている。災害が起こった時に、女性がいろいろなところで弱い立場になるので、そういうところでリーダーシップがとれる女性が必要であると言われてている。

委員： 固定的役割分担意識が、ここ数年で大きく変わってきている。スーツのお父さんが抱っこひもをしている姿もよく見かけるようになった。また、男性が育児と仕事の両立で悩んでいるとのニュースも見た。子育ては、父親と母親、互いに何ができるか、尊重し、協力して、それぞれの家庭でやり方を作り上げていくものなのだと思う。

会長： 今の若い世代の意識の中では、同性婚や夫婦別姓など当たり前の時代になってきている。

男女共同参画に関する法律の名称が、男女となったのは、法律が作られた時の歴史や経緯がある。各市町村の計画は、この法律の名称をとって、男女共同参画プランなどとしているところが多いが、市町村レベルであれば、プラン名の見直しをしてもいいの

ではと思う。

委員： 庁内推進会議については、次年度もこのような形で行われるのか。

また、ワーキンググループ会議等どのような流れになるのか。

事務局： ワーキンググループは、各課の現場レベルの方が委員となり、毎年メンバーが異なる。プランの進捗状況の報告してもらうために、まずは、趣旨の説明を行う予定。

会議の最後に次年度ワーキンググループと庁内推進会議の予定について説明する。

委員： 女性活躍センターで色々な事業をされていることは高く評価できるが、参加者が全体的に少なく、出張就業相談会については、2名・3名となっているが、少ないのはなぜか。参加人数について、想定していたのがその人数なのか。少ないと認識しているのであれば来年度に向けてどのように考えているのか。

事務局： 女性活躍センターで実施している講座は、大会議室で開催しており、定員を25～30名としている。

出張就業相談会については、一人40分の予約制であり、3名の定員となっている。

委員： 応募者が多数でお断りしたことがあるのか。

事務局： もともと定員数が少ないが、定員に満たない講座もある。

定員を超えた場合は、お断りした講座もあった。

委員： 参加のニーズが多くある講座については、女性活躍センターを利用することも大切ではあるが、希望する市民の方に参加してもらえるよう、市民会館を利用するなど検討してはどうか。

あすもあと市民会館とで事業を区分けしているのか。

事務局： 基本的には、女性活躍センターの中で事業を展開していきたいと考えているが、すべての講演会を女性活躍センターで開催しているのではなく、市民会館を会場にしている事業もある。

会長： あすもあマルシェは、たくさんの参加があり認知度が高まってきている。

事務局： あすもあマルシェについては、午前10時から午後4時まで全施設を使って開催している。参加者は、少ないときもあったが、12月と2月は急増した。

- 委員： 女性活躍センターは、隣に駐車場もあって行きやすい施設であるが、あすもあってどこ？と聞かれることも多く、施設の認知度がまだ低いと思う。
- 委員： 女性活躍センターの利用率はどうなっているか。
- 事務局： 令和4年ぐらいから、以前と比べて倍近く増えている。
- 委員： コワーキングルームはどういったことができるのか。
- 委員： 女性活躍センターのコワーキングルームは、オフィスとして使えるものではない。
- 事務局： 在宅ワークをしている方などが、1時間もしくは1日、月単位で利用することができる。月額であれば8,000円と利用料は安くなっている。
- 会長： 月に1回実施されている男性のための電話相談事業について、件数が11件とあるが増えているのか。
- 事務局： 昨年に比べ増えている。
11件すべて違う方が相談されており、相談者の内の3人は10代であった。相談内容は、体の悩みや家族の介護など様々であった。
- 委員： 介護等の相談であれば他の機関を紹介することもあるのか。
- 事務局： 内容によっては、他機関を紹介している。
- 委員： リーダー等の育成の自分らしく生きよう！いきいきフォーラム実行委員会について、単に実行委員会形式でやるだけで終わるのではなく、実行委員が自主的に何か取り組めるよう先を見据えてやっていくほうがよいのではないか。
- 事務局： 実行委員の中には、色々な活動をされ知識豊富な方もいるが、次に活躍できるよう育成するところまでできていないのが実情である。
- 委員： 実行委員は固定された方なのか。
- 事務局： 毎年、公募しており、継続される方もあれば、更新されない方もいる。任期は、1年としている。
- 委員： 次の活躍の場があることを伝えていってはどうか。
- 会長： 以前、フォーラム実行委員の方が、男女共同参画審議会の委員もされていた時に実際に実行委員会の見学させてもらったが、みなさんすごく楽しそうに集っておられた。もちろん、きちんと議

論も積み重ねておられた。

委員： 市民ぐるみ「多様な性の在り方が尊重される京都」推進ネットワークについて、具体的にどのような活動をされているのか。

事務局： 向日市は、推進ネットワークの協力メンバーとして参画している。

京都市が実行委員の中心となり事業を展開されている。

委員： 向日市内で実行委員として参画を考えている団体はあるのか。

事務局： 現在のところ実行委員に向日市の団体はいない。京都市内の企業や団体が中心となっている。また、企業及び団体がプライド月間に合わせ LGBTQ+に関する取り組みをされた際には、向日市や、同じく協力メンバーである長岡京市、亀岡市、福知山の事業の取組を紹介してもらうなど、連携・情報共有をしている。

委員： 向日市が何をしていくのかを伝えることが必要。

事務局： また、来年度に新たな取組として、LGBT等の当事者の方等の相談事業や交流できる居場所となるような事業を京都市等、先行市と共同して実施したいと考えている。

委員： 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律やLGBT理解増進法について、男女共同参画のアンケートや計画にどういれていくのか検討していかないといけない。

会長： 皆様の意見が多く出て、課題も見えてきた会議であった。

本日の議題については以上で審議終了とする。

事務局から次回の日程について説明をお願いしたい。

事務局： 来年度のスケジュールについては、令和7年度の「第3次向日市男女共同参画プラン」改訂に向けて、男女共同参画に関する市民意識調査アンケートの実施を予定している。そのため、庁内推進会議では、アンケート内容について意見をいただきたいと考えている。また、ワーキンググループ会議については、4月か5月に実施予定である。

なお、男女共同参画審議会の開催は、アンケート調査もあることから、7月、9月、3月の3回実施する予定である。